

基礎分野	授業科目	生物学	単位数	1	講義時期	1年次前期	授業形態	講義	
			時間数	15					
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと								
科目のねらい	解剖生理学の学習の前段階として、人体の構造と機能、人体を構成する最小単位である細胞のつくりと機能を学ぶ。								
DPとの関連 到達目標	DP 2-3) <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の構造と役割を大づかみに理解できる</li> <li>2. 細胞の生命活動について理解できる</li> <li>3. 「細胞の生命を保つ事は、個体の生命を保つ事である」ことを理解し、細胞から生物を見る見方を理解できる</li> </ol>								
		教育内容						備考	
I. 機能と構造からみた人体		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 構造からみた人体</li> <li>2. 機能からみた人体</li> <li>3. 体液とホメオスタシス</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人体解剖図作り</li> <li>1) 生命維持システム               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 運動・調節システム</li> </ol> </li> <li>1) 体液               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 内部環境とホメオスタシス</li> </ol> </li> </ol>						
II. 人体の素材としての細胞・組織		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞の構造</li> <li>2. 細胞を構成する物質とエネルギーの生成</li> <li>3. 細胞膜の構造と機能</li> <li>4. 細胞の増殖</li> <li>5. 細胞の生命活動</li> <li>6. 分化した細胞が作る組織</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 核</li> <li>2) 細胞小器官と細胞骨格</li> <li>1) 細胞の化学成分</li> <li>2) エネルギーの変換とATP産生</li> <li>3) 核酸と蛋白質の合成</li> <li>1) 細胞膜の構造</li> <li>2) 細胞膜の機能</li> <li>3) 細胞膜の蛋白質の機能</li> <li>1) 細胞周期</li> <li>1) 物質代謝</li> <li>2) 細胞の寿命</li> <li>1) 上皮組織</li> <li>2) 筋組織</li> <li>3) 結合組織</li> <li>4) 神経組織</li> </ol>						
III. 人間のもつ自然治癒力		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己再生・修復</li> <li>2. 自己防衛・生体防御</li> <li>3. ホメオスタシス</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自己再生・修復とは</li> <li>2) 自己防衛・生体防御とは</li> <li>3) ホメオスタシスとは</li> </ol>						
評価方法	筆記試験								

基礎分野	授業科目	教育学	単位数	1	講義時期	1年次後期	授業形態	講義
			時間数	30				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	人間が人間らしく生きるためには教育が不可欠であり、教育は文化や社会の在り方と密接に関係し、人間形成に及ぼす影響が大きい。また、看護は対象の持てる力を発揮できるよう支援していくことであり、看護師には教育的役割も求められる。 そのためこの科目では、「教育とは何か」を中心テーマに人間形成の歴史的变化や課題について学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 1-2) DP 4-2)	1. 教育の形式や内容が歴史的に変化してきた様子を理解できる 2. 今日の教育を見る具体的な問題を考察し、自分なりの意見を形成することができる						
单元名		教育内容					備考	
I. ヒトから人間へ		1. 人間の特殊性 2. 教育の必要性  3. 教育の変遷 4. 教育の本質・意義・機能 5. 生活形成の人間形成	1)家庭教育 2)学校教育 3)社会教育					
II. 教育の役割		1. 学校形式の教育 2. 公教育・義務教育とは何か 3. 近代的人間形成の性格 4. 人間形成と文化伝達(教科書・教室・教師)						
III. 現代社会における教育現場の課題		1. 高度経済成長と社会の変容 2. 現代社会における子どもをめぐる状況 3. 今日の教育病理現象	1)いじめ 2)学級崩壊 3)人間形成の代表的課題					
評価方法		筆記試験						

基礎分野	授業科目	人間関係論 I	単位数	1	講義時期	1年次後期	授業形態	講義・演習
			時間数	30				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	人間社会において人間相互の関係は重要なのは相互の関係であり、人間関係が相互の認識を相互浸透によって発展する。 そのことをふまえこの科目では、看護者として望ましい人間関係を構築するとともに自己理解を深め他者をより理解するための基礎技術を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 1-1) DP 1-2)	1. 人間関係の基盤となるコミュニケーションの基礎技術を習得することができる						
单元名		教育内容					備考	
I. 心理学と人間関係		1. 心理学  2. パーソナリティー 3. 対人関係 4. 人間関係の発展	1)心理療法とカウンセリング 2)カウンセラーの3条件  1)対話的關係 1)エリクソンの発達段階説 心理的-社会的心の世界の発達 2)ストレスとストレスマネジメント					
II. コミュニケーションの理論と実際		1. コミュニケーションの基本過程 2. 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 3. コミュニケーションと相互理解 4. 交流分析 5. 看護のコミュニケーション	1)きく、ということ    1)ロールプレイ				演習	
評価方法	レポート（内容については、講義日程確定時に提示する）							

基礎分野	授業科目	人間関係論Ⅱ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義・演習
			時間数	30				
事前学習内容	既習の「人間関係論Ⅰ」の内容を復習しておくこと 各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	看護師には、相手の立場を考えながら、自己の考えも伝えるコミュニケーション技術が不可欠である。人とのよりよい人間関係を築けるよう人間関係論Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、看護場面におけるコミュニケーションを円滑にするための基礎的知識・技術を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 1-1) 1. アサーションの実際を理解する DP 1-2) 2. ディベートの実際を理解する 3. 患者とのコミュニケーション技術を理解できる 4. カウンセリングの基礎技術を習得することができる							
単元名	教育内容							備考
I. アサーション	1. アサーションとは  2. アサーションのトレーニング	1)アサーション誕生の背景 2)自己表現の3つのパターン (1)ノン・アサーティブ (2)アグレッシブ (3)アサーティブ 3)アサーションがめざすもの 4)DESK法					演習	
II. ディベート	1. ディベートとは 2. ディベート体験	1)ディベートの手法					演習	
III. 対人コミュニケーション	1. よりよいコミュニケーションをめざして	1)自己のコミュニケーションの特徴に気づく 2)自分の心を豊かにする 3)話を聞く技術 4)話をする技術 5)効果的コミュニケーションの5つの要素 6)自己のコミュニケーション技術のふりかえり					演習	
IV. カウンセリングの理論と実際	1. カウンセリングの意義  2. カウンセリングの臨床における応用(ロールプレイ)	1)バウムテスト 2)TEG					演習	
評価方法	レポート(内容については、講義日程確定時に提示する)							

基礎分野	授業科目	社会学	単位数	1	講義時期	1年次前期	授業形態	講義
			時間数	30				
事前学習内容	社会情勢や自己を取り巻く社会について関心を持ち、新聞やニュース等で情報収取しておくこと 各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	社会的存在としての人間を理解するために、社会の成り立ちやしくみ、人間と文化、現代における新たな問題、家族社会学を含めて理解し、看護師として広い視野と多様な価値観を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 1-1) DP 1-2) DP 2-1) DP 4-2)	1. 基本的な社会の成り立ち、組織について理解し、社会的存在としての人間を理解することができる						
単元名		教育内容						備考
I. 社会学の基礎		1. 社会学とは何か	1) 社会学の理念 2) 社会学の全体構造					
II. 個・性・家族		1. 私をめぐる社会学 2. ジェンダーとセクシュアリティをめぐる社会学 3. 家族をめぐる社会学	1) 自我と他者とのコミュニケーション 1) 女らしさ 男らしさを問い直す 2) 性差・ジェンダーの社会化 3) ワーク・ライフ・バランス 4) セクシュアリティとは 1) 家族とは何か					
III. 社会と集団		1. 若者と子どもをめぐる社会学 2. 地域をめぐる社会学 3. メディアと情報化をめぐる社会学 4. 階級・階層をめぐる社会学 5. 国際社会とエスニシティをめぐる社会学 6. 社会運動・NPO・ボランティアをめぐる社会学	1) 若者たちの「やさしい関係」 2) 児童・生徒におけるいじめ 3) 現代の若者の問題 1) 人間にとって都市とは何か：アーバンイズム論の系譜 2) 都市社会学の「発生」とコミュニティ 1) メディアとは何か 2) 情報化社会とその実現 1) 日本の階級・階層構造とその変動 2) 社会的排除と貧困 1) 「エスニシティ」とは何か 2) 国民国家とその課題 3) 多文化社会とその課題 4) 日本の現状 1) 社会運動 2) NPO/NGOと市民社会 3) 後期近代におけるボランティア活動					
評価方法	筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）							

基礎分野	授業科目	組織論	単位数	1	講義時期	1年次後期	授業形態	講義・演習
			時間数	15				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	看護はチームで行う小集団(グループ)活動である。グループ活動は、それぞれの役割を各々が遂行し、グループメンバーの相互作用を通して課題が達成される。そのためこの科目では、小集団活動の概要を理解するとともに、小集団活動における役割発揮、円滑なコミュニケーションのための技術を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 1-1) DP 1-2)	1. 小集団活動の概要を理解できる 2. 小集団活動におけるコミュニケーション技術を習得できる						
单元名		教育内容						備考
I. 小集団活動とは		1. 小集団活動の意義と必要性 2. 小集団活動と日常生活との関係 3. 小集団活動の効果	1) 体験学習の特徴  1) コンテンツとプロセス					
II. 活きたグループ運営		1. グループづくり 2. グループ内の役割分担 3. グループワークのコツ	1) リーダーシップ機能 (PM理論) 2) ブロックモデル				演習	
評価方法	レポート (内容については、講義日程確定時に提示する)							

基礎分野	授業科目	情報科学 I	単位数	1	講義時期	1年次前期	授業形態	演習
			時間数	15				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと 配布された資料などを再度確認し、パソコン操作が行えるようにしておくこと							
科目のねらい	情報通信技術 (ICT) の発展に伴い、医療現場でもパソコンやタブレット型端末の活用、遠隔診療・保健指導の導入等が進展しており、看護師にもICT活用するための基礎的能力が求められる。 そのためこの科目では、コンピューターの基本的な操作を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 2-3)	1. 基本的なパソコンの操作方法が習得できる 2. Word、Excel、Power pointの基本的操作方法が習得できる						
単元名		教育内容					備考	
I. コンピュータリテラシーとセキュリティ		1. コンピュータに関する基礎知識 2. インターネットに関する基礎知識と注意点	1) パーソナルコンピューターのハードウェア 2) パーソナルコンピューターのソフトウェア 1) インターネットのしくみ 2) コンピュータ利用におけるリスクと自衛			演習		
II. 文字情報の整理		1. Wordの基本操作 2. Excelの基本操作 3. Power Pointoの基本操作	1) 文章の入力、書式の付け方 1) 表計算のソフトウェア 1) プレゼンテーション			演習		
評価方法		筆記試験・実技試験 (配点については、講義日程確定時に提示する)						

基礎分野	授業科目	情報科学Ⅱ	単位数	1	講義時期	3年次前期	授業形態	演習
			時間数	15				
事前学習内容	既習の「情報科学Ⅰ」の内容を復習しておくこと							
科目のねらい	コンピューターの基本的な操作を理解し、看護研究に活用できる基礎的な統計処理の手法を学ぶ。 また、電子カルテの操作方法の基本と取り扱い方の基本を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-3) DP 4-2)	1. 看護研究に生かせるデータ処理や文献検索ができる 2. 電子カルテの操作方法を理解できる						
単元名		教育内容					備考	
Ⅰ. コンピュータによる 統計処理		1. Excelによる統計解析	1)表計算のソフトウェア 2)平均・中央値・分散・標準偏差の意味 3)共分散、相関係数 4)アンケート結果の集計 (1)アンケート結果入力～分析				演習	
Ⅱ. 医療における情報 システム		2. 医療における情報の記録	1)電子カルテの操作 2)電子カルテの医療情報システムの安全管理				演習	
評価方法		筆記試験						

基礎分野	授業科目	英語 I	単位数	1	講義時期	1年次前期	授業形態	講義・演習
			時間数	30				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、分からない単語は調べておくこと							
科目のねらい	国際化が進み、医療現場においてもコミュニケーション手段として英語が重要な役割を担っている。そのためこの科目では、英語を聞く、話す、読む、書く基礎的能力を習得するとともに、医療場面でよく使われる英語表現を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 1-1) 1. 英語を聞く、話す、読む、書く力の基礎を習得できる DP 1-2) 2. 医療現場において、簡単な英語を使ってコミュニケーションを取ることができる							
単元名	教育内容							備考
I. 医療英語	1. 患者とのコミュニケーション  2. 外来でのコミュニケーション  3. 入院時のコミュニケーション	1) 言葉の力 2) 励ましの声かけ 3) 気分を聞く  1) 案内 2) 症状を聞く 3) 痛みを聞く 4) 病歴を聞く 5) 検査の説明  1) 入院患者との会話 2) 手術の説明 3) 薬の説明 4) 退院後の説明						演習
II. 文章読解	1. 文章の概要をつかむ	1) Let's Read						
評価方法	筆記試験（配点については、講義日程確定時に提示する）							

基礎分野	授業科目	英語Ⅱ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義・演習
			時間数	15				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、分からない単語は調べておくこと							
科目のねらい	国際化が進み、医療現場においてもコミュニケーション手段として英語が重要な役割を担っている。そのためこの科目では、英語を聞く、話す、読む、書く基礎的能力を習得するとともに、医療場面でよく使われる英語表現を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 1-1) 1. 英語を聞く、話す、読む、書く力の基礎を習得できる DP 1-2) 2. 医療現場において、簡単な英語を使ってコミュニケーションを取ることができる							
单元名	教育内容							備考
I. 文章読解の応用	1. 文章の概要をつかむ	1)WHAT IS A NURSE ? — 看護とは — 2)THE HISTORY OF NURSING — 看護の歴史 — 3)PATIENT—NURSE RELATIONSHIP — 患者と看護師の関係 — COMMUNICATION WITH A PATIENT — 患者とのコミュニケーション — 4)RELATED PROFESSIONALS — 関連のある職種の人達 — 5)NURSES IN THE COMMUNITY — 地域における看護師 —						
II. 医療英語の応用	1. 入院時のコミュニケーション	1)入院患者との会話 2)手術の説明 3)薬の説明 4)退院後の説明					演習	
評価方法	筆記試験（配点については、講義日程確定時に提示する）							

基礎分野	授業科目	手話	単位数	1	講義時期	1年次前期	授業形態	講義・演習
			時間数	15				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	さまざまなコミュニケーションの技法の1つの方法として、聴覚に障害をもつ人への理解を深め、医療現場で役立つ手話の基本を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 1-1) 1. 医療現場において、手話での簡単な日常会話ができる DP 1-2)							
単元名		教育内容						備考
I. 手話の基礎知識		1. 聴覚障害の基礎知識 2. 手話の基礎知識	1)聴覚障害とは  1)手話とは何か					
II. 手話の実践		1. 指文字 2. 伝達手段 3. 日常の手話 4. 医療手話	1)50音 2)数詞 1)身振り・表情・指差して伝える 2)表情や身体の動きで伝える 1)挨拶 2)自己・他者紹介 3)話しかける 1)病院で使われる単語と例文実践 (症状の確認、痛みの有無など)				演習	
評価方法	筆記試験・実技試験(配点については、講義日程確定時に提示する)							

基礎分野	授業科目	ポルトガル語	単位数	1	講義時期	1年次後期	授業形態	講義・演習
			時間数	15				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	国際、グローバル社会において、様々な国から外国人が滞在している。医療現場においても、異なる言語・文化を持つ人々ともコミュニケーションを図っていく能力が求められる。また、特にこの地域ではポルトガル語を母国語とする人々が多く生活している。 そのためこの科目では、医療現場で役立つポルトガル語の日常会話を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 1-1) DP 1-2)	1. 医療現場において、ポルトガル語での簡単な日常会話ができる 2. 異文化への関心を持つことができる						
单元名		教育内容					備考	
I. ポルトガル語の コミュニケーション		1. 日常会話	1)あいさつ 2)日常会話 3)身体の名称				演習	
		2. 医療現場における コミュニケーション	1)身体の名称 3)症状を聞く 4)案内する					
II. 異文化への理解		1. ブラジルの文化	1)ブラジルの暮らし				演習	
評価方法		筆記試験						

基礎分野	授業科目	論理学	単位数	1	講義時期	1年次前期	授業形態	講義
			時間数	30				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	看護においては、コミュニケーション能力や問題解決能力、論理的判断力、クリティカルシンキングが必要とされる。また論理的思考とともに、それを表現する力を身につけることが必要である。そのためこの科目では、自己の意見を論理的に伝える文章の表現方法を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 2-3) 1. 「根拠」に基づき、「主張」とその妥当性を「理由づけ」できる DP 2-4) 2. 説得力のある論述文を書くことができる							
単元名	教育内容							備考
I. 論理的思考とは	1. 論理学とは	1) 論述文のタイプ、論述文の型 2) 文章表現の基礎 3) 立場を問うタイプ 4) 意見を問うタイプ 5) セルフチェック						
II. 論理的文章表現の実際	1. 論述文作成	1) 自己紹介文作成(主張、根拠) 2) 論述文作成のためのデータ収集・整理 3) アウトライン作成 4) 論述文作成						
評価方法	レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）							

基礎分野	授業科目	認識論	単位数	1	講義時期	1年次前期	授業形態	講義・演習
			時間数	15				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	看護の対象である人間を理解するには、人間の存在・価値観・ものの見方などを深く考え理解する必要がある。また、看護は他者を理解するだけにとどまらず、自己の考えを筋道をたてて表現する力も要求される。そのためこの科目では、論理的思考力を育むための、ものの見方・考え方とその表現方法を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 2-3) DP 2-4)	1. 物事を論理的に思考し、客観的に評価できるものの見方、考え方ができる 2. 自己の考えを道筋を立てて表現することができる						
单元名		教育内容						備考
I. 弁証法		1. 哲学の観念 2. 弁証法とは (科学的なものの見方 考え方)	1)量質転化 2)否定の否定 3)相互浸透					
II. 認識論		1. 認識論とは 2. 認識を深める 3. もうひとりの自分 4. 演繹法と帰納法	1)認識の三段階				演習	
評価方法		筆記試験						

基礎分野	授業科目	スポーツと健康	単位数	1	講義時期	1年次後期	授業形態	実技
			時間数	30				
事前学習内容	自己の体調を管理しておくこと							
科目のねらい	健康の保持・増進には適度の運動が必要であり、看護者として他者の健康を整えるためには自己の健康の保持・増進は不可欠である。また看護師には、他者と連携・協働していく能力が求められる。そのためこの科目では、スポーツを通してコミュニケーションをはかり、チームワーク力を養うとともに、他者と協力しあう大切さを学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 1-1) DP 1-2) DP 3-1)	1. 自己の健康・体力の保持増進をはかることができる 2. チームワーク力を身につけることができる						
单元名		教育内容					備考	
I. 競技スポーツ		1. 集団競技	1)ドッチボール 2)バレーボール 3)バスケットボール 4)フットサル					
II. ダンス		1. 創作ダンス						
評価方法	実技試験（配点については、講義日程確定時に提示する）							

基礎分野	授業科目	キャリア形成論	単位数	1	講義時期	1年次前期	授業形態	講義
			時間数	15				
事前学習内容	キャリア形成の具体的契機となる活動、「生きること」「働くこと」「学ぶこと」の意義や目的を考えておくこと							
科目のねらい	よりよい生き方や職業キャリアを創造していくためのキャリア形成の基本を理解し、看護専門職として成長していくために必要なレディネスを培うことを目的とする。							
DPとの関連 到達目標	DP 4-1)	1. キャリア形成の必要性を理解できる。 2. 自己のキャリアデザインを描くことができる。 3. 看護師のキャリア発達に必要なレディネスを理解できる。						
単元名		教育内容						備考
I. キャリア形成		1. キャリア形成の基本	1) 進化したキャリアの概念 2) キャリア発達・キャリア形成の基本ステップ					
		2. キャリア理論と キャリアレジリエンス	1) 最近の代表的なキャリア理論 2) キャリアレジリエンスの概念とアセスメント					
		3. 看護師のキャリア発達	1) キャリアデザインと創造的キャリアの条件 2) 自律型人材をめざして					
評価方法	レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）							